

各種がんの罹患率を基にした場合の がんである可能性が次の表です。例えば AICS(胃)の場合、ランク A では 3,088 人に 1 人が、ランク B では 603 人に 1 人が、ランク C では 95 人に 1 人が胃がんである可能性を示しています。

【 】内は各種がんの罹患率を 1 とした場合の、がんである倍率を示しています。

項目	罹患率	ランク分類		
がん種		ランク A	ランク B	ランク C
AICS(胃)	0.1036%	1/3,088【0.3 倍】	1/603【1.6 倍】	1/95【10.2 倍】
胃がん				
AICS(肺)	0.0887%	1/3,342【0.3 倍】	1/604【1.9 倍】	1/125【9.0 倍】
肺がん				
AICS(大腸)	0.1325%	1/1,510【0.5 倍】	1/596【1.3 倍】	1/92【8.2 倍】
大腸がん				
AICS(膵臓)	0.0273%	1/12,744【0.3 倍】	1/2,893【1.3 倍】	1/316【11.6 倍】
膵臓がん				
AICS(前立腺)	0.1179%	1/1,885【0.5 倍】	1/398【2.1 倍】	1/133【6.4 倍】
前立腺がん				
AICS(乳腺)	0.1264%	1/1,194【0.7 倍】	1/440【1.8 倍】	1/198【4.0 倍】
乳がん				
AICS(子宮・卵巣)	0.0858%	1/4,660【0.3 倍】	1/794【1.5 倍】	1/100【11.6 倍】
子宮がん・卵巣がん				

ランク A ではがんである可能性が低いと考えられますが、通常のがん検診は受けることをおすすめします。ランク B ではがんである可能性がやや高くなりますが、基本的には通常のがん検診のおすすめとなります。ランク C ではがんである可能性が高いため精密検査をおすすめすることになりますが、同時に精密検査相当の検査を受けている場合にはその結果を考慮に入れる場合があります。

AICS はがんである可能性の評価であり、ランク A であってもがんである場合がありますし、ランク C であってもがんでない場合もあり、この検査だけでがんであるかどうかを診断できるものではありません。AICS がランク A であっても他のがん検診で要精密検査となった場合には精密検査を受けることをおすすめします。

アミノインデックス リスクスクリーニング検査上の注意事項

- ① 以下に該当する場合には、正しい結果が得られませんので検査対象外となります
- ・妊娠中あるいは授乳中の方
 - ・先天性代謝異常の方
 - ・透析患者の方
 - ・がん患者(治療中を含む)の方
 - ・検査前 8 時間以内に食事やサプリメントを摂られた方

また、生活習慣病リスクスクリーニング(AILS)につきましては、糖尿病の方の糖尿病リスク、脳卒中・心筋梗塞の方の脳心疾患リスクは AILS 値や検査結果に基づくタイプは出力されますがいずれも評価対象外となります。

② 下記の病気にかかっている方は、がんリスクスクリーニング(AICS)値に影響を与える可能性があります。検査の対象外とするものではありません。しかしながら、がんではないのに下記病気のためにリスクが大と出る可能性があることをご理解のうえでご利用ください。

AICS(肺)	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、非結核性抗酸菌症、肺結核、肺炎腫、無気肺
AICS(前立腺)	前立腺肥大、糖尿病
AICS(子宮・卵巣)	子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍
複数の AICS	脳梗塞

③ AICS は下記年齢の日本人を対象として開発された検査です。対象年齢以外の方が受診された場合でも検査結果は報告されますが、AICS 値やランク判定結果は評価対象外となります。また、一部のがん種についてのみが対象外となる場合、そのがん種は評価対象外となります。

検査名称	対象がん	対象年齢
男性 AICS(5 種)	胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん	25～90 歳
	前立腺がん	40～90 歳
女性 AICS(6 種)	胃がん、肺がん、大腸がん、すい臓がん、乳がん	25～90 歳
	子宮がん・卵巣がん	20～80 歳